

グリーン・ツーリズム検討分科会 検討事項の概要等



= 目次 =

1. まちづくり委員会と検討分科会
2. グリーン・ツーリズムとは
3. 検討事項の概要
 - ◇総合計画と戦略プロジェクト
 - ◇グリーン・ツーリズム分科会の検討事項
4. 現状と課題
5. 統計資料（農業・観光）
6. 活動スケジュール
7. 取組事例<福島県喜多方市>

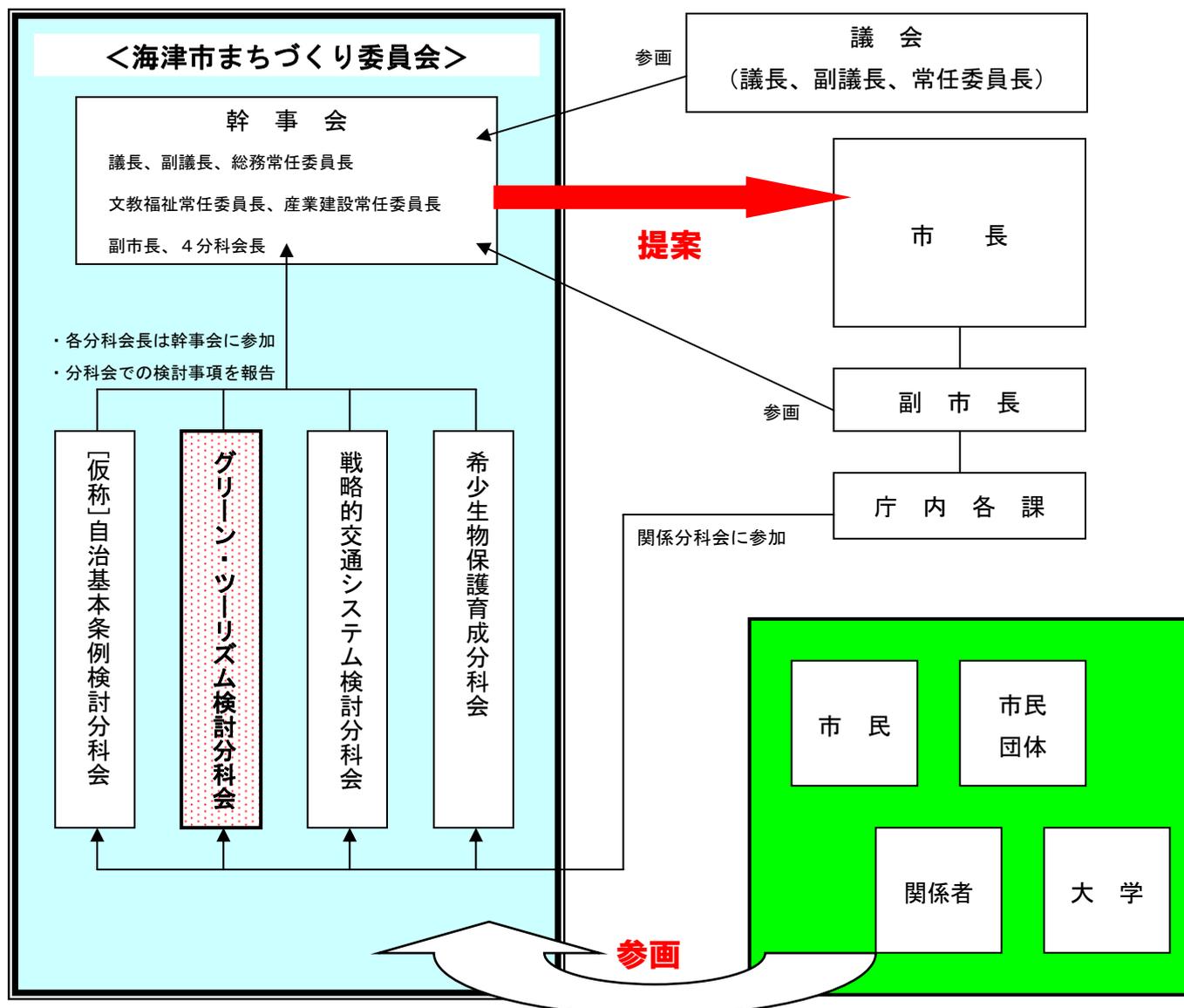
1. まちづくり委員会と検討分科会

海津市の将来像である「協働が生まだす 魅力あふれるまち 海津」の実現をめざして、市民参画によるまちづくりを推進するため、このほど海津市まちづくり委員会を設置しました。

この委員会は、海津市総合開発計画の実現に向けて協働が必要と判断される課題について調査および検討を行い、市長に提案するものです。

委員会は、幹事会および4つの分科会（グリーン・ツーリズム検討分科会、[仮称]自治基本条例検討分科会、戦略的交通システム検討分科会、希少生物保護育成分科会）から構成されています。各分科会で調査・協議されたことが、幹事会で調整され、最終的に市長へ提案することになります。

■まちづくり委員会組織図イメージ



2. グリーン・ツーリズムとは

グリーン・ツーリズムとは「緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動。農村で楽しむゆとりある休暇」でヨーロッパ諸国で普及した旅のスタイルです。

最近我が国でも“新しい旅のカタチ”として関心を集めており、その内容も様々で、山や森、川、海などの自然の中で遊んだり、農林漁業、伝統工芸や伝統芸能など地域の産業や文化活動を体験したり、祭りやイベントに参加したりと、多様化してきています。

グリーン・ツーリズムの魅力は、様々な「体験」と「ふれあい」で、単なる観光旅行と異なり、手に入れる感動もより深く、大きなものになります。

海津市においても、地域資源を活用し、多くの方にまちの「魅力」をPRできるよう展開していきたいと考えています。

3. 検討事項の概要

◇総合計画と戦略プロジェクト

海津市総合開発計画は、本市が誕生して初めて策定されたもので、旧3町で取り組んできた成果や合併時に策定した「新市まちづくり計画」を踏まえながら、新生海津市のまちづくりをより発展的に、より具体的に推進するために策定されました。

総合開発計画においては、市民と行政がよいパートナーとして連携し、それぞれが役割と責任を持ち、知恵と汗と元気を出してまちづくりに取り組んでいくことを目標にしています。また、めざす将来像を実現するために、重点的かつ優先的に取り組む施策を“戦略プロジェクト”と位置付け実施していきます。そして、この戦略プロジェクトの一つとして「グリーン・ツーリズムの推進」が位置付けられています。

◇当分科会の検討事項

当分科会においては、海津市の基盤産業である農業と、木曾三川公園、千代保稲荷神社をはじめとした観光資源などを連携させて、都心からの住民が再び訪れたいくなるような心温まる「ふれあい」を大切にしたまちづくりを展開するための方策を検討し、提案していきたいと考えています。



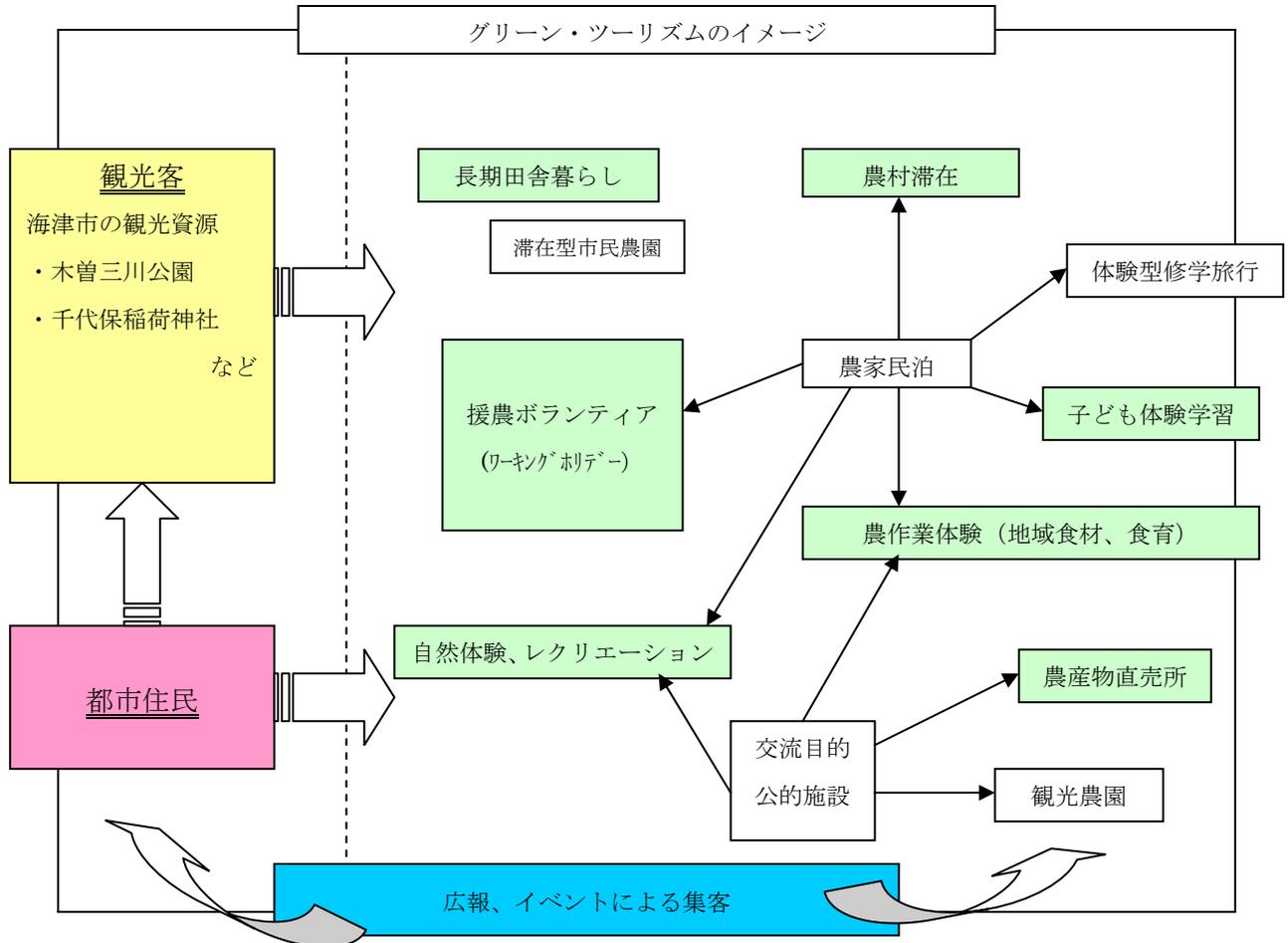
▲農業フォーラム21による収穫体験

4. 現状と課題

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと価値観が移り、健康志向や環境保全意識の高まりとともに、「ゆとり」や「やすらぎ」のあるライフスタイルを求める都市住民の増加が顕著となってきました。余暇時間を利用して農村地域に滞在し、豊かな自然や美しい景観のなかで農作業体験や人々との交流を楽しみながら、ゆったりとした時を過ごしたいというニーズ、また故郷を持たない子どもの増加、農山漁村体験が子どもの情操教育に効果があると言われるなど、グリーン・ツーリズムへの潜在的な欲求が高まってきています。このような背景の中、各市町村ではこういった人々を受け入れるために、さまざまな取り組みを行っています。

海津市においては、都市近郊に位置する地理的性格や豊かな自然環境から、手軽に楽しめる、都市住民にとっての「やすらぎ空間」や「ふれあい空間」として地域が活性化する可能性は高いと思われていますが、十分に活用されているとはいえない状況です。

地域の資源を活かした事業、それらを市民のまちづくり事業として考え展開していくことは、農家経済への寄与はもとより、農業・農村に対する理解の促進、さらには消費者ニーズの把握に基づく販路の拡大など、新たなアグリビジネスの展開が期待できるのではないのでしょうか。また、農家同士、農家と商店とのネットワーク、観光資源と合わせたネットワークなど構築できれば、まちの活性化はもちろん、地域経済の活性化にもつながるのではないかと考えます。



5. 統計資料（農業・観光）

■農家構造（平成17年）

（単位：戸）

	海津町	平田町	南濃町	合 計
専 業 農 家	111	29	79	219
第 1 種 兼 業 農 家	103	41	58	202
第 2 種 兼 業 農 家	769	266	547	1,582
自 給 的 農 家	277	172	302	751
合 計	1,260	508	986	2,754

資料：2005農林業センサス

■経営耕地面積（平成17年）

（単位：a）

	田	普通畑	樹園地
海津町	187,383	14,032	351
平田町	73,196	21,071	89
南濃町	45,046	3,105	17,112
合 計	305,625	38,208	17,552

資料：2005農林業センサス

■農産物の作付け面積・収穫量（平成16年）

（単位：ha・t）

区 分		海津町	平田町	南濃町	合 計
稲	作付面積	1,160	443	394	1,997
	収穫量	5,840	2,100	1,860	9,800
小麦	作付面積	610	276	24	910
	収穫量	1,710	700	49	2,459
大豆	作付面積	582	244	3	829
	収穫量	822	318	4	1,144
キュウリ	作付面積	22	7	2	31
	収穫量	2,430	507	32	2,969
トマト	作付面積	24	3	3	30
	収穫量	4,080	432	482	4,994
ナス	作付面積	4	3	1	8
	収穫量	191	73	19	283
イチゴ	作付面積	8	8	3	19
	収穫量	224	239	49	512
白菜	作付面積	4	5	2	11
	収穫量	146	190	55	391
大根	作付面積	26	27	4	57
	収穫量	841	1,270	144	2,255
柿	作付面積	6	2	92	100
	収穫量	43	13	699	755
みかん	作付面積	-	-	118	118
	収穫量	-	-	1,330	1,330

資料：岐阜農林水産統計年報「作物統計調査（作況調査）」

■耕作放棄地のある経営体数と耕作放棄地面積（平成17年）

単位 面積：a

区分	計		田		畑（樹園地を除く）		樹園地	
	実経営体数	面積	実経営体数	面積	実経営体数	面積	実経営体数	面積
海津町	92	1,083	19	289	80	794	-	-
平田町	25	294	3	20	23	274	-	-
南濃町	258	5,716	158	2,672	39	524	123	2,520
合計	375	7,093	180	2,981	142	1,592	123	2,520

資料：2005年農林業センサス

■家畜・家きん頭羽数（平成17年）

区分		海津町	平田町	南濃町	合計
乳用牛	飼養戸数	3	10	4	17
	飼養頭数	71	707	107	885
肉用牛	飼養戸数	6	7	1	14
	飼養頭数	923	69	x	x
豚	飼養戸数	-	1	-	1
	飼養頭数	-	x	-	x
鶏（採卵鶏）	飼養戸数	2	5	5	12
	飼養羽数	x	116,730	230,000	x
鶏（ブロイラー）	飼養戸数	-	1	12	13
	飼養羽数	-	x	280,185	x

資料：2005年農林業センサス

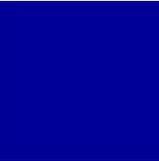
■年間の観光客数

（単位：人）

千本松原・国営木曾三川公園	1,399,838
海津市歴史民俗資料館	22,378
千代保稲荷神社	2,132,110
老人福祉施設「海津苑」	466,936
南濃温泉「水晶の湯」	250,078
道の駅「クレール平田」	647,114
道の駅「月見の里南濃」	294,736
今尾左義長	7,000
チューリップ祭	337,900
長良川国際トライアスロン大会	5,000
いきいきフェスタ	27,300
その他	34,779

資料：平成17年

岐阜県観光レクリエーション動態調査



6. 活動スケジュール

第1回分科会開催 平成19年7月30日(月)



分科会開催(開催日程等は、2ヶ月に1回程度開催予定。)

- ・現状分析
- ・課題と研究(ワークショップ)
- ・先進地視察
- ・提案書作成



提案書完成 平成21年3月

7. 取組事例（グリーン・ツーリズム喜多方田舎体験より抜粋 <http://www.kitakata-gt.jp/>）

すでに国内では、多くの団体等がグリーン・ツーリズムの取り組みを進めています。以下に福島県喜多方市の取り組みの一部を紹介します。

田んぼの学校 ～田植&稲刈り・収穫祭～

体験可能な時期	春秋(05 月～10 月)
料金等	10500 円～ ①,②2回シリーズ1家族5人の料金(新米 10kg プレゼント) ①,②1回のみ参加も可能(新米 10kg プレゼント) 1 回のみ参加1家族 7,350 円
利用可能な時間	9 時から 12 時から
所要時間	
体験可能人数	2 人～35 人
食事・宿泊	朝 昼 晩 泊
詳細	① 5 月中旬田植&田舎料理・こびる（小昼・簡単な食事）を食べよう ② 9 月下旬～1 0 月上旬稲刈り&収穫祭・新米でおにぎりを作ったり餅をついたり農家で楽しい一日を過ごしていただきます。おもいきりいなかを味わっちゃいましょう！！ 楽しく働いた後の食事はまた格別です。



畑の学校 ～大地のオーナー制～

体験可能な時期	春夏秋(01 月～12 月)
料金等	8400 円～ 価格は1年間1組あたり、5人まで 肥料代込・苗代別。遠方の方の畑の管理と収穫物の宅配は、実費。
利用可能な時間	9 時から 14 時から
所要時間	
体験可能人数	1 人～5 人
食事・宿泊	朝 昼 晩 泊
詳細	<p>農家の 10 坪の畑をシーズン中 (4 月 20 頃～11 月 30 日) お貸しします。畑のオーナーになって自分の好きな野菜《じゃがいも、きゅうり、トマトなど》を育てます。農家の方が鍬の持ち方から丁寧に指導いたします。シーズン中いつでも作業においでください。農業が初めての方でも大丈夫!! 農業のプロフェッショナル、人情厚いおじちゃん、おばちゃん達が丁寧に教えてくれます。自分で育て、収穫した採れたての野菜は美味しいですよ。景色のいい畑で作業した後、農家でのティータイムがあるかも? これから農業・家庭菜園をしてみたい方、またはファミリーにもおすすめ!! です。きっと野菜が大好きになっちゃいますよ。</p>



りんご栽培体験

体験可能な時期	夏秋(06月~11月)
料金等	1160円~ 栽培体験(袋かけなど)は1,160円、収穫体験は2,310円(試食・おみやげ付)。
利用可能な時間	9時~ 14時~
所要時間	
体験可能人数	1人~10人
食事・宿泊	朝 昼 晩 泊
詳細	6月は袋かけ、9月下旬からは収穫が体験できます。栽培体験(袋かけなど)は1,160円、収穫体験は2,310円(試食・おみやげ付)。寒暖の差が大きい喜多方はりんごの産地。みずみずしくて甘酸っぱいりんごを心ゆくまでご賞味ください。



漬物作り

体験可能な時期	(通年)
料金等	2310 円～ 材料費別
利用可能な時間	9 時～ 14 時～
所要時間	
体験可能人数	2 人～15 人
食事・宿泊	朝 昼 晩 泊
詳細	取れたてのこだわり野菜の味が生きたおいしい漬物を作ることができます。おいしい漬物を作るため、一番大切なのはやっぱり原料。でも、原料の味を生かせなければ意味がありません。主婦歴？年の地元のおばちゃんたちから熟練の技をしっかり学んじやいましょう。



農泊 やまり (TEL 0241-22-5608)

体験可能な時期	(通年)
料金等	4200 円～ 洗面用具・パジャマは持参 食事は体験調理(朝食は必須)または近隣の食堂利用
利用可能な時間	17 時～
所要時間	
体験可能人数	1 人～7 人
食事・宿泊	朝 昼 晩 泊
詳細	<p>【ご予約は各農家へお電話にてお願いいたします。】 農産物を活用した加工や、履物からお菓子まで何でも自分で作ってしまう。アイデアと生活の知恵があふれる宿 楽しみながら交流することをモットーとしています。客室の離れは新築でエアコン完備、快適な田舎暮らしをご提供します。定員：7名、客室：洋室離れ（エアコンあり）、トイレ：汲取り式(簡易水洗)、駐車場あり、食事：体験調理又は近隣の飲食店をご利用ください。ありのままの農家暮らしが体験できます。農家で心の温まる交流をお楽しみください。蔵のある農家、築 100 年を超える旧家など広々とした居住空間、旬の採れたて野菜を手間と暇をかけた至福の郷土料理、澄んだ空気と日本の原風景がそのまま残る極上の生活空間。ひとつ上の贅沢がここに 있습니다。</p>
	

山菜採り&森林散策

体験可能な時期	春夏(04月~06月)
料金等	3470円~ 長時間の場合、昼食は各自持参
利用可能な時間	9時から 14時から
所要時間	
体験可能人数	1人~25人
食事・宿泊	朝 昼 晩 泊
詳細	<p>山の恵・山菜の出る場所に名人と一緒にいきます。コゴミ、タラノメ、ゼンマイ、ウド、フキ、イラコ、ミズナ、ウルイ、ウコギ、ドホナ、シドキなど 森林の新鮮な空気を吸いながらトレッキング。本当は山菜の出る場所って誰にも教えないんですって。でも、名人が内緒で御案内しちゃいます。山菜のことだったら何でも聞いてください。おいしい食べ方も教えますよ。森林の中を歩くだけでも気分爽快です。</p>

